

令和 6 年度 西東京市立学校 学校経営計画

学校名	西東京市立東小学校	校長名	長尾 信一
-----	-----------	-----	-------

教育理念及び教育目標

西東京市教育計画及び西東京市子ども条例の理念のもと、自他の人権を尊重し、よりよい国際社会を築くための資質や能力の伸長を図る。

学力と豊かな人権感覚を備えた児童を育成するため、学校の教育目標

「ともに学び合い、心ゆたかに生きる子」の達成を目指す。

さらに、自ら学び、自ら考え、心豊かで思いやりのある元気な児童を育成するため

○よく考える子（知） ○思いやりのある子（徳） ○たくましい子（体）

の調和がとれた児童の育成を図る。

学校の特徴

西武池袋線保谷駅の南側の地域にあり、練馬区と境を接している。造成が進み児童数も毎年増加している。地域や保護者は、学校の教育活動に協力的である。素直な児童が多く、真面目に努力し、学習活動に真剣に取り組む。教職員は、若手、中堅が多く、活力がある。「チームひがし」を合言葉に、全員で子供たちの未来のために尽力している。

- 1 特別支援学級「あすなる学級」が設置されており、行事や校外学習を中心に、特別支援学級と通常級の交流や共同学習を実施している。
- 2 東小学習スタンダードを基に、学習規律の徹底と分かる授業を進めている。
- 3 東小生活スタンダードを基に、規範意識を高める生活指導に力を入れている。
- 4 各教科・領域を横断した人権教育の取組に力を入れている。
- 5 東小体育スタンダード、食育スタンダードを基に、体力向上・食育を推進している。

目指す学校像（学校像、児童像、教師像）

〈学校像〉未知の世界である Society' 5.0、I o T の社会を生きる児童を育成するため、学校経営の基本を「幸せ追究の学校づくり」と定める。学校が児童にとっても、教職員にとっても、保護者にとっても「幸せ追究の場」となることを目指し、以下のような学校の創造のために教職員とともに努力する。「幸せ追究」とは学校が、

- ① 児童にとっては生き生きと学習する場となり（通ってよかった）
 - ② 教職員にとっては生き甲斐をもって教育活動をする場となり（勤務してよかった）
 - ③ 保護者にとっては信頼でき協力できる場となる（通わせてよかった）ことである。
- そのためには「学校と家庭、および地域社会とが連携と協力を深めていくことが重要である。未知の世界を生き抜くために必要な基礎的な学力と豊かな人権感覚を備えた児童を育成する学校を築いていく。

〈児童像〉「よく考える子」進んで学び考え、協働して課題に取り組む児童（解決力）

「たくましい子」健康な心と体をつくり、育てようとする児童（心身の健康）

「思いやりのある子」優しい心もち、自分も人も大切に作る児童（人間関係形成力）

〈教師像〉「専門職としての誇りと自身のミッションを自覚するとともに、職層に応じた職務に真摯に向き合いながら、創意工夫に満ちた授業の充実や学級・学年・専科経営、それぞれの職務に努め、児童の心に灯りをともしめることのできる人間力ある教職員」

学校経営の目標

1 中期経営目標（中間的課題）

学力の向上 （１）主体的・対話的で深い学びの授業実践により基礎基本の確実な定着を図る。

体力の向上 （２）生涯学習の基盤となる、丈夫な体とたくましい心を育てる。

ＣＳ化に向けた取り組み （３）今年度のＣＳスタートに向けて教育課程の再編成を行う。

開かれた学校 （４）計画的に学校公開を行うとともに学校 HP を充実させ、地域人材や環境を積極的に活用しながら交流事業を計画的に進め、学校の活性化を図る。

働き方改革 （５）職員全員が週当たりの勤務時間を５３時間以内となるようにする。

2 短期経営目標（１に基づく本年度の重点目標）

（１）基礎基本の定着を図り、思考力・判断力・表現力を育てるとともに、主体的に学習に取り組むことを通し、自己実現を目指し、社会に貢献する児童を育てる。

（２）健康教育を推進し、心身ともに健康でたくましい児童を育てる。

（３）生活科、総合的な学習の時間を核としたカリキュラムマネジメントを展開するとともに「ふるさと探究学習」を推進する。

（４）地域との交流事業を通し協働し学び育つ環境作りを行い、最新の学校教育情報を広く提供する。

（５）時間に対するコスト意識を浸透させ、自身の業務管理を自身の力で管理できる力を育成し、効率的な業務進行ができるようにする。服務事故は絶対に起こさないという意識の徹底を図る

具体的方策

（短期経営目標を達成するための学校の具体的な取組）

（１）

①学習スタンダードをもとに、授業や家庭学習に意欲的に取り組む児童を育てる。授業力の向上と授業改善、朝学習の活用と充実により、授業が楽しいと回答する児童８０％以上を目指す。

②全員が各学年に配当された漢字の読み書きと四則計算が正確にできるようにする。平均正答率９０％以上を目指す。

③全単元で ICT を活用した学習を行うとともに発達段階に応じた ICT のスキルを確実に身に付けさせる。タブレット端末の積極的な活用とプログラミング教育の充実を図る。

④読み聞かせ活動や効果的な読書指導により読書好きの児童を育てる。

⑤全ての単元で主体的・対話的で深い学びの視点で言語活動を重視した授業を行う。

⑥あすなる学級においては安全を第一に考え、個別の指導計画に基づき個別最適な学習を展開させる。また、通常級と特別支援学級併設の利を生かし、授業や行事等で交流学習を積極的に行う。

（２）

①体育スタンダードをベースに休み時間や特設の時間の活用、体育の授業改善を通し体力の向上を図る。

②生活、及び食育スタンダードをもとに、家庭との連携を重視しながら基本的な生活習慣の確立を図る。

③すべての教育活動を通して人権教育に取り組み、いじめのない環境づくりに努める。

（３）

①全学年で地域人材や環境、保護者との連携による「ふるさと探究学習」を行う。

②「ふるさと探究学習」を通して生活科、総合的な学習の時間を核とした他教科・領域とのカリキュラムマネジメントを推進し、コミュニティスクール化に向けた教育課程の再構築を行う。

③コミュニティスクール化に向けた教員研修を計画的・定期的に実施し、知識と意識の醸成を図る。

（４）①地域の諸機関、団体、個人との連携を通して開かれた教育課程を実現する。

②各種の通信や学校ホームページ、一斉メールなどを通して児童の様子を伝えとともに学校公開や多様な行事を通して学校の透明性を高める。

③近隣の小中学校との連携を深め、小中一貫教育、および小学校同士で連携した取り組みの充実を図る。

（５）①副校長業務支援員やスクールサポートスタッフ、学年教育アシスタント、学校生活支援員等を効果的に活用することを通して職責に応じた職務に集中できるようにする。

②コスト意識を高めるとともに整理・整頓・清掃・清潔・習慣の徹底を通して業務の効率化を図る。